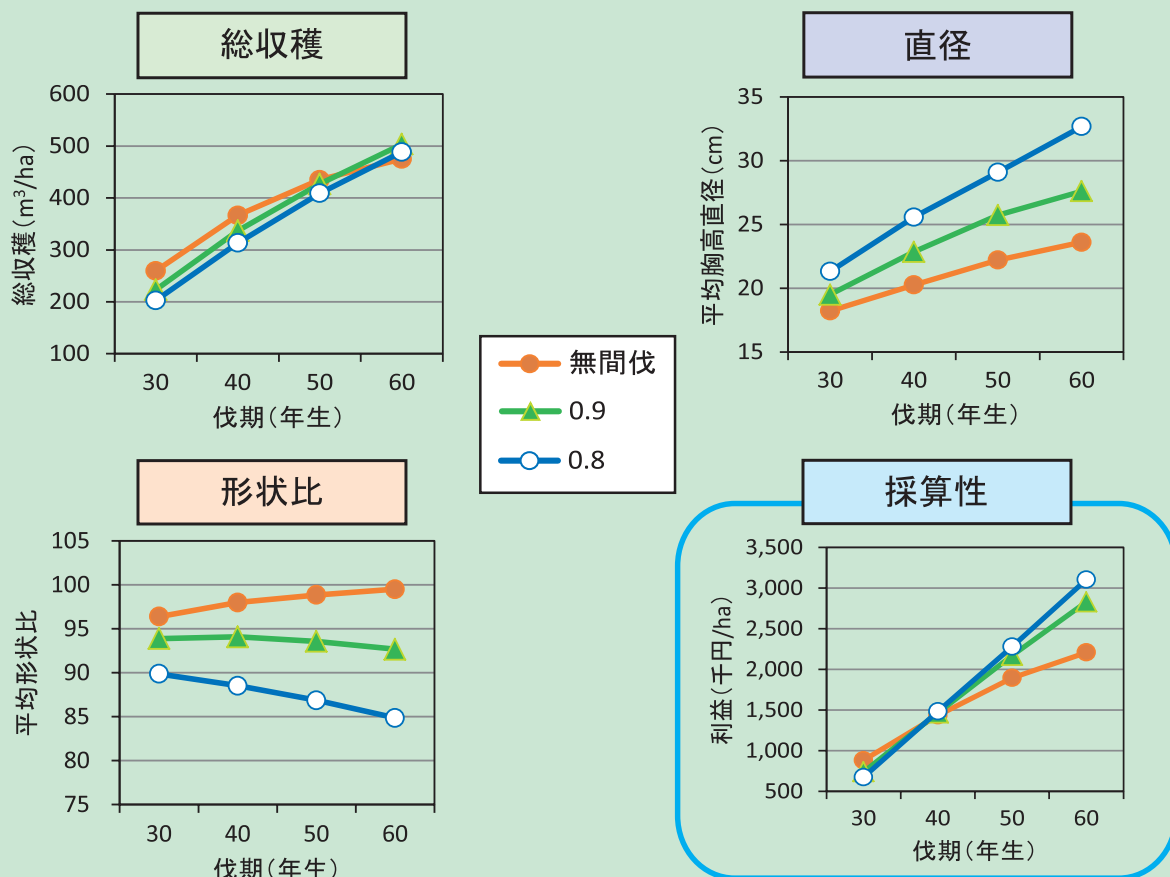


どちらがお得? 間伐と無間伐

通常の植栽密度(2500本/ha程度)で造成された人工林では、幹の成長促進や風害等の回避のため収穫までに数回の間伐が必要とされています。しかし、道内の一般民有林約67万haの針葉樹人工林のうち、間伐等の施業経歴がない人工林は約4割を占めています。間伐が実施されない大きな理由の1つに森林所有者の事業費負担の敬遠があげられます。確かに間伐を実施しなければ間伐コストがかからないので一見得なように思えますが実際はどうでしょう?

通常、無間伐林分では風害などの被害が発生しやすいとされ、被害が発生すれば収穫量は激減し主伐時の収入も少なくなります。さらに、立木本数が多く直径が細くなりパルプ材など材価が低い丸太が多くなります。そのため間伐コストがかからなくても収穫量や質が低下しトータルでは無間伐のほうが損をする可能性もあります。そこで、カラマツを対象として、無間伐林分と間伐林分で主伐までの収穫量や採算性などを比較し、どちらが得なのか分析しました。

検討にあたっては、当场で開発したカラマツ人工林収穫予測ソフトに改良を加え、様々な施業方法(地位指数24、植栽密度2500本/haで伐期、間伐方法などを換え265通り)における収穫量や採算性など調べました。ここでは伐期30~60年のときに、間伐林分の2例(間伐を実施するときの収量比数を0.8と0.9)と無間伐林分を比較した結果を紹介します。間伐と主伐時の総収穫は両者でおおきな違いはありませんが、立木直径は間伐林分で太くなります。形状比が高いと風害のリスクが高まるとされ、無間伐では間伐よりも形状比が高くなります。そして、丸太販売による収入から事業費(育林費は補助率68%)を引いた利益は50年生以上では間伐林分で大きくなります。最近のカラマツ人工林の伐期は50~60年が平均的なので通常は間伐したほうが、採算性も高いと考えられます。なお、今回は無間伐では自己間引きによる枯死のみを想定していますが、その他の被害が発生すれば無間伐はさらに利益が低下するでしょう。(道南支場)



林業試験場 本 場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
 道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
 道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434
 道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
 ホームページ <http://www.fri.hro.or.jp/>

発行年月 平成26年3月
 発 行 地方独立行政法人
 北海道立総合研究機構
 森林研究本部 林業試験場
 〒079-0198 美唄市光珠内町東山